

こんにちは 市民病院です

飛騨市民病院は
無くなりません

飛騨市民病院
黒木嘉人

新年、あけましておめでとございませう。

さて、厚生労働省は、昨年9月に全国の公立・公的病院のうち「再編統合の議論が必要」と位置づけた424病院を実名で公表しました。その中に飛騨市民病院も含まれており、この報道を知った市民の皆さまはさぞや不安になられたことと思います。これは厚生労働省が打ち出した「地域医療構想」に関連するものであります。「地域医療構想」とは、この先の2025年に団塊の世代が後期高齢者となる一方で、支える世代の15〜64歳の生産年齢人口が減少するので、限りある地域の医療資源を効率的に活用するために、各県が主導で病院のベッド数を見直ししよつとするものです。しかし、必然的に病床削減の議論を伴うことになるために、全国各地でも「地域医療構想」の

議論が具体的に進んでいないのが現状であり、業を煮やした厚生労働省が大変に唐突で無謀な今回の公表に至った訳です。この判定基準は「特に診療実績の少ない」と類似かつ近接する(車で20分以内)に病院がある」の2つです。前者は当然小規模病院の大半が該当しますが、だからといって病院を無くしてもいいのでしょうか。また、後者のような病院が飛騨市民病院の近くには無いのに「ある」との分析結果であり、そのあたりからこの公表がいかにも信ぴょう性に欠けるかが明白です。

そもそも岐阜県が進めてきた「地域医療構想」では、飛騨市民病院の再編統合の議論は全く出ていません。また、通院距離による病院の必要性の判断自体は重要な視点といえ、神岡地区での安心な暮らしに飛騨市民病院が不可欠なことは言うまでもありません。したがって病院が無くなってしまうというご心配にはおおよびませんのでご安心ください。しかし、これからの人口減少、少子高齢化社会のニーズにあわせた形態に病院を変革させて行かなければいけないことは、避けられない道であるものとご理解いただきたいと思えます。



みんなで活かして
楽しい毎日!

飛騨の薬草を学ぶ 教養講座

クマザサ

冬になると植物、更にはその中から薬草を探そうと思つとかなり限られてきますね。

クマザサは年中あちこちの山で緑の葉を見ることができるとも生命力がとて強い薬草です。「タミニンB1、B2、C、Kのほか、カルシウムや鉄分、カリウム、マグネシウム、亜鉛など多くのミネラル分が含まれており、それが臍臓や血管の強化につながります。また、笹団子や富山のマスの寿司はササで包んでありますが、これはササの防腐殺菌作用を活用しているのです。そのような強い抗菌効果があります。

効能としては、リンパ液の流れを良くし、解毒作用があり、胃弱、胃もたれ、高血圧、糖尿病に効果があります。常時飲んでいると、虚弱体質やアレルギー体質の改善につながります。胃潰瘍、胃炎、歯槽膿漏、口内炎を改善し、口臭除去の作用があるなどさまざま効果があります。

世の中にはクマザサを使ったお茶や健康

食品が数多く販売されています。それらも血液関係や抗菌殺菌、口臭除去といった効果を期待するものが多いようですね。

活用としては、葉が丈夫で加工がしにくいので、お茶にするのがいいでしょう。乾燥葉や生葉を煎じます。目安はお湯が黄色くなるまで煮だしてください。飲んですぐ効果を実感する場合がありますが、基本は適量を長く続けることで、体の中で代謝され、さまざまなミネラルの働きにより体質が改善されて健康になります。じっくり腰を据えてはじめてみましょう。これは薬草全てに言えることです。また、もし春先にクマザサのタケノコを見つけたら皮付きのまま焼いて、皮を取って食べてみましょう。体の痛みをとることができず、何より美味しいですよ。

冬場でも手に入れることができる薬草をうまく取り入れて、体にミネラルを補給しましょう!



(村上光太郎「薬草を食べる」より)